

特定非営利活動法人 チーム杉劇 設立趣意書

磯子区民のための文化拠点として、平成17年2月5日に『横浜市磯子区民文化センター杉田劇場』はオープンしました。これまでにない市民の目線に立った運営が期待される新たな文化施設として、時代の大きな流れとなっていた「協働」をどう推し進めていくのか、多くの関心が集まりました。

第1期指定管理期間は、そこにいる誰もが一体感で繋がる催しを実施することにより区民の輪を広げることにも努め、その結果、「杉劇リコーダーズ」や「いそご文化資源発掘隊」が生まれ、さらに“磯子”にこだわるオリジナル区民参加型事業の上演活動などへと繋がっていきました。小学生からゴールドエイジ（団塊世代以上）に及ぶ多くの仲間が、区内にとどまらず県外にも及ぶ出張事業を実施するなど、身近なところから芸術文化によって人々の心を繋ぐ活動を着実に広げました。

平成22年4月からの第2期指定管理期間は、第1期の中で積み重ねた区民による幅広い文化交流活動を、さらに拡充発展させることを目指してスタートしました。

これと時を同じく、これまで杉田劇場をサポートしてきた仲間たちが集まって、「杉田劇場と歩む区民の会(略称：区民の会)」が設立され、区民は何を望んでいるのか、未来の磯子区の芸術文化を育むためにはどうしたらいいのか、さまざまな意見交換をする場、区民同士の出会いや気づきの場として、自分たちの力を結集しようと話し合いを重ねました。

指定管理者制度に基づいて運営が行われる横浜市の文化施設においては、数年単位で管理者が変わってしまう可能性があります。そこに住み続ける住民が、わが町の文化を誇りに思い、文化施設も含めたいろいろな施設との関係づくりを大切にしていくなかで、施設側のスタッフが変わってしまうことにより、これまで築きあげた繋がりや活動取組がその都度薄れ、無くなってしまうようにしなければなりません。“文化は人（地域）の力なり”を信念に置き、継続の力が何よりも大切と考えました。

そこで、杉田劇場のオープン以来、共に区民協働から区民主体の運営への発展を目指してきた磯子区民と公益財団法人横浜市芸術文化振興財団の思いが、いよいよ実を結ぶ時が到来したことを確信し、地域と文化をコーディネートできる力を持った人材が区民と一緒に、文化の力で地域の発展を支え、指定管理者制度に捕らわれない磯子区を中心とした芸術文化を担う新しい組織『特定非営利活動法人 チーム杉劇』を設立します。

磯子という地域が持つ歴史と生活文化を大切に、それらを活かし、さらに将来に向かって成長する地域をつくるために、磯子に暮らす人々の知恵とさまざまな分野の専門家・行政との橋渡しを通して、磯子の文化振興を具体的な形にしていく組織です。区民との融合体である『特定非営利活動法人 チーム杉劇』は、文化の力を信じて、さまざまな枠を超え、機動力のある実行部隊として区民と一緒に文化で地域を繋げる役割を担っていきます。

平成 24年 11月 8日

法人の名称 特定非営利活動法人 チーム杉劇
設立代表者 中村 牧